

24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会
第 6 回会議議事録（概要版）

開催日時：2019 年 3 月 1 日（金）16:00～18:00

場所：日本学術会議 5A-（1）会議室

出席者：片田、小松、井上、岩崎、川口、田高、菱沼、南、綿貫、西村（議事録）

Web：正木、山本、浅野

欠席者：吉沢、寶金、野嶋、内布、多久和、太田

【資料】

- 1 第 5 回会議議事録（概要版）
- 2 第 5 回会議議事録（詳細版）
- 3 マスタープラン（2020）（案）
- 4 公募要項 第 24 期学術の大型研究計画におけるマスタープラン「学術大型研究計画」の公募について
- 5 日本看護系学会協議会主催 マスタープランの説明・意見交換会 チラシ
- 6 高度実践看護班資料
- 7 わが国の公衆衛生の重要課題を考える 日本学術会議主催市民シンポジウム チラシ

【議題】

（1）健康・生活委員会の報告

前回の分科会以降、委員会は開催されていない。必要があった場合、遠隔で行う予定である。今後は、マスタープランに関して検討が進む予定である。

（2）分科会の次年度の活動計画（会議日程等を含む）

今年度の 3 月までの予定はなく、次年度は年間 3 回の会議を予定している。時期としては 4～6、9～11、12～1 月に各 1 回開催したい。日程調整は後日メールで行う。

分科会の成果としては、両班から提言等を出していく予定である。

マスタープランの公募が 2 月 1 日に出ており、看護学分科会で検討している案を、健康・生活科学委員会へ提案し、日本学術会議に提出予定である。締め切りは、3 月 29 日である。

（3）大型研究計画に関するマスタープランについて（資料 3, 4, 5）

小松副委員長より、前回の看護学分科会で出された意見を踏まえて、マスタープラン（2020）（案）（資料 3）へ修正したことが報告された。

本プランは、科学者コミュニティの合意を受けるステップが必須である。今後は、看護系学会協議会で開催されるマスタープラン（2020）説明・意見交換会（資料 5、3 月 10 日開

催)において、社員学会から意見をもらう予定である。その後、健康・生活科学委員会に提案する。既に、片田委員長から本件は、健康・生活科学委員会に伝えてある。健康・生活科学委員会で申請したことがないため、まずは申請をしてみることを大事にする。

上記の説明を受けて、意見交換を行った結果、マスタープランの方針としては、現状の通り進めることとなった。修正が必要な内容としては、問題の射程範囲を広げ(高齢化の問題にとどまらない)、全体の見取り図を分かりやすく示すとともに、ケアイノベーションによるアウトカムを明確にすること、多様な具体例を入れて、読み手がイメージしやすい表現とすること、本プランにおける「ケア」「ケアサイエンス」の意味を明確にすることなどが挙げられた。追加で意見がある場合は、早急にメール等で連絡することとなった。

今後は、日本看護系学会協議会および、第二部会に提案して意見を頂く予定である。

(4) 各班の活動状況

1) 高度実践看護職班

- ・ p.29(資料6)をもとに、井上委員から、10年にわたる高度実践看護についての議論を踏まえて、今期は、提言をまとめる予定であることが報告された。
- ・ 提言は、「日本型ナースプラクティショナーの実現のために」とする予定だが、世界標準を踏まえて作成していく。

上記の報告に対し、ナースプラクティショナーとCNSの関係、高度実践看護師という名称の使用に関する検討の必要などの意見が出された。

2) 地元創成看護班

南委員より、進捗について報告された。地元創成看護班の考え方については、ケアサイエンスの考え方と類似していること、その理由は、地元の人びとが自分たちで健康をサポートしていける地域力に注目しているためである。そのため、集めようとしている地元で行われている興味深い活動の例は、ケアサイエンスの具体的なものになると考える。地方創成の時代は、地域を活性化しようという方向性がある。

今後、地元で暮らしている人々に登壇していただけるシンポジウム企画を検討していく予定である。

(5) その他

田高委員より、パブリックヘルス分科会と全国公衆衛生関連協会連絡協議会とがタイアップして、シンポジウムを企画したことが報告された。資料7を参照して頂きたい。

公衆衛生看護学会と日本地域看護学会が全公連に入っている。

以上